

## 令和5年度上半期 公共下水道事業 業務の状況

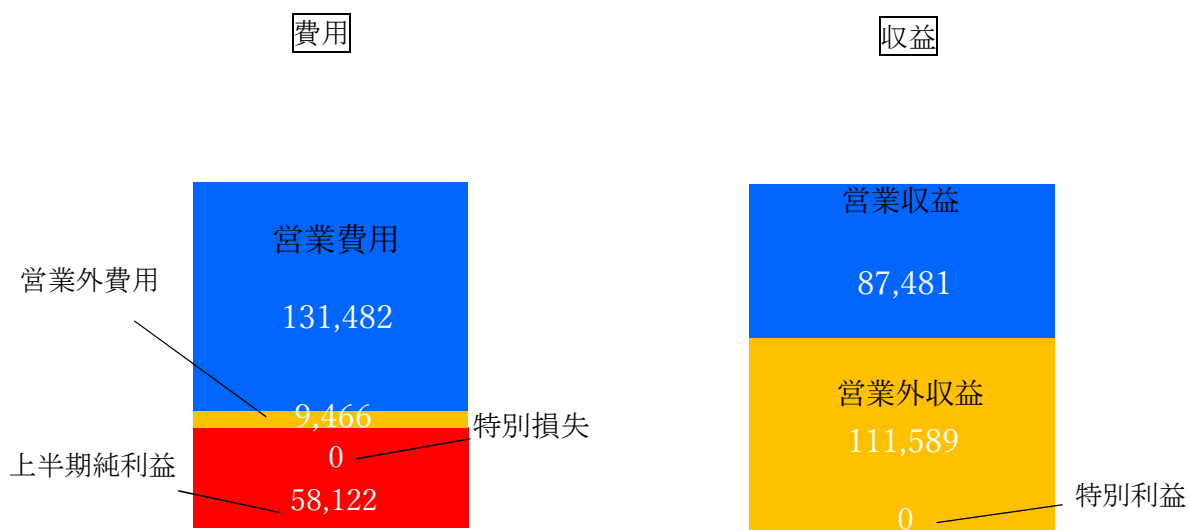
### 概要及び経営方針

令和5年度上半期の流入汚水量は625万 m<sup>3</sup> で、主な収入である下水道使用料（税込）は7億49万円となりました。

また、令和4年度末貸借対照表における下水道使用料等の未収金は、2億6,095万円ありましたが、2億5,575万円を収入しました。

事業活動につきましては、事故等もなく計画どおりに進めております。管渠及び終末処理場等の建設改良事業につきましても、地権者や工事を発注する業者との調整を行いながら着実に進捗しています。

流入汚水量	625万 m <sup>3</sup>
下水道使用料収入	700百万円（税込）



科目	金額	科目	金額
営業費用	131,482万円	営業収益	87,481万円
営業外費用	9,466万円	営業外収益	111,589万円
特別損失	0万円	特別利益	0万円
上半期純利益	58,122万円		

※ 減価償却費及び長期前受金戻入は、当初予算の1/2を計上しております。

※ 資金収支の関係上、一般会計からの繰入金を早期に収入したことにより、上半期は純利益となっていますが、繰入金は年間を通じて使用するため今後変動が生じます。

# 令和4年度伊勢原市公共下水道事業報告書

## 1 概況

### (1) 総括事項

本市の下水道は渋田川を境に東側を流域関連公共下水道、西側を単独公共下水道の区域としており、汚水と雨水を別々の管渠で排除する分流式を採用しています。

流域関連公共下水道は昭和46年に事業認可を得て、相模川流域下水道右岸処理区の一部として四之宮水再生センターで汚水を処理しています。また、単独公共下水道は昭和53年に事業認可を得て、伊勢原終末処理場で処理しています。

本市は、令和2年度に経営基盤の強化を図ることを目的として、伊勢原市下水道事業経営戦略を策定しました。令和4年度は計画の2年目の事業年度となります。

収入面では、新型コロナウイルスの感染拡大が生じたものの、With コロナにおける社会・経済活動の正常化が意識され、外出機会が更に増加したことや、各家庭での節水意識の浸透等により、家事用汚水量は減少した一方、東部第二土地区画整理区域における汚水量の増加に伴い、事業用汚水量が全体で増加となり、下水道使用料は増収となりました。

支出面では、ウクライナ情勢の不安定化などによる石炭や液化天然ガス等の輸入価格の上昇に伴い、電気料が高騰したことにより、処理場、ポンプ場及び流域下水道維持管理費負担金といった維持管理経費が大幅に増額し、経営状況に大きな影響がありました。

主な事業としては、公共下水道未整備区域への未普及対策として、田中・上粕屋・伊勢原3丁目・伊勢原4丁目・沼目4丁目・下糟屋地区の面的整備を進めました。また地震対策として、比々多小学校にマンホールトイレを設置したほか、老朽化した管渠の更生工事による長寿命化対策を行いました。

今後も経営の効率化を図りながら、計画的に整備を進めてまいります。

(経営及び排水状況) ※ ( ) 内は消費税及び地方消費税込みの金額です。

事業収益は、3,161,352,583円(3,304,507,550円)となった一方、事業費用は3,104,691,863円(3,191,243,996円)となりました。この結果、本年度の純利益は56,660,720円となりました。

また、資本金収入は1,474,791,836円(1,476,286,280円)となった一方、資本金支出は、2,112,832,893円(2,191,660,276円)となりました。資本金収入額が資本金支出額に不足する額715,373,996円は、当年度分消費税及び地方消費税資本金の収支調整額56,602,834円、当年度分損益勘定留保資金658,771,162円で補てんしました。

排水状況については、下水道使用料収入となる有収水量が8,764,222m<sup>3</sup>で、前年度に対して0.1%(13,032m<sup>3</sup>)の減となりました。

### (整備・改築更新状況)

令和4年度末における汚水処理区域面積は約935.20haで前年度から約24ha拡大しました。人口普及率は81.22%となり、前年度から0.6ポイントの増となりました。また、管渠の耐震化により、防災・医療拠点の流下機能の確保率は97.9%となっています。

管渠については、ストックマネジメント計画に基づく更生工事を実施し、長寿命化実施済率は66.1%となりました。また、処理場の自家発電設備等の長寿命化対策工事及び下落合第2ポンプ場の地震対策工事を、令和4・5年度の継続事業で進めています。

### (2) 経営指標に関する事項

令和4年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、前年度比1.3ポイント増の101.8%となりました。事業用汚水量の増加に伴い下水道使用料が増収となったことや、電気料高騰による支出の増への対応として、一時的に一般会計からの繰入金を増額したことによるものです。

また、使用料収入により汚水処理に要した経費をどの程度賄えたかを示す経費回収率は、相対的に使用料単価の高い事業用汚水量が増加したことにより、前年度比1.0ポイント増の95.1%となりました。

償却対象資産の減価償却資産の状況を示す有形固定資産減価償却率は、前年度比2.9ポイント増の13.0%となりました。

管渠耐震化率は47.6%となっています。これは耐震化を予定していた管渠が、現在計画されている小田急電鉄の新操車場設置予定箇所に設定された箇所であるため、実施を見送ったことによるものです。なお、令和3年度に幹線の管渠の総延長が変更となったことに伴い、令和3年度は前年度比で減少しております。

引き続き、経営の健全化及び伊勢原市下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道施設の適切な維持管理に取り組んでまいります。

#### <経営指標の推移>

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
経常収支比率	101.8%	100.5%	100.3%
経費回収率	95.1%	94.1%	91.2%
有形固定資産減価償却率	13.0%	10.1%	7.6%
管渠耐震化率	47.6%	47.6%	53.0%